

病理専門医制度運営委員会だより (第46号)

### 1. 2026年度病理専門医試験について

2026年度の専門医試験は、8月22日、23日の土日に東邦大学医学部で実施致します。PCを用いたヴァーチャルスライドと写真(PDF配布)で試験を行います。PCはレンタルで用意しますので、持ち込みは不要です。ビューワーは浜松ホトニクス製のNDP.view2画像閲覧ソフトウェアを使用します。受験される皆様にはヴァーチャルスライドに事前に慣れておいてください。ソフトウェアは浜松ホトニクスのホームページからダウンロード可能です(<https://www.hamamatsu.com/jp/ja/product/life-science-and-medical-systems/digital-slide-scanner/U12388-01.html>)。また、サンプルデジタル病理画像(WSI)を会員専用ページに掲載しておりますのでご利用ください。

(<https://e-learning.pathology.or.jp/course/view.php?id=63>)

### 2. 2026年度の病理専門医受験申請について

既に申請要綱は公開され、申請を受け付けています。

<https://www.pathology.or.jp/senmoni/semoni-shiken/2026.html>



必要書類のPDFファイルをアップロードする形式です。「申請要綱」をよく読み書類を準備し、電子申請の操作方法は「病理専門医試験申請ガイド」をご参照ください。申請は5月1日(金)13時までです。

2026年4月10日(金)17:00-18:00にWebでの試験申請書類提出ガイダンスを行いますので、受験される方は是非ご参加ください。

受験申請準備の際に重要となる事項を列挙します。

- ・死体解剖資格・剖検例：死体解剖資格(法医)保有者は、別途死体解剖資格(病理)を取得する必要があります。剖検症例は受験申請時までに24例必要です。医師臨床研修(いわゆる初期研修)期間の症例は認められません。死体解剖資格申請後長期間にわたり連絡がない場合は、進捗を提出先の保健所等にお尋ねください。受験申請締切日の段階で未認定でも、5月31日までに審査結果が到着する見込みであれば、未認定の状態での申請が認められます。
- ・死体解剖資格認定要領の一部改正がございました。詳細は

病理学会HP新着情報をご参照ください。

2024.7.4 死体解剖資格認定要領の一部改正に関して(2024.6.25改正)

<https://www.pathology.or.jp/senmoni/20270704.html>

- ・人体病理学の業績：人体病理の業績は3編以上が必要です。あくまでも「人体病理(病理診断学)」の業績です。3編中1編は論文でなければいけません。また業績3編のうちどれか1編は受験生本人が筆頭でなければなりません。これは学会発表でも可です。論文・学会発表の必要要件は申請要綱をご参照ください。
  - ・受験に必要な講習会：「剖検講習会」、「病理診断に関する講習会」、「分子病理診断および分子病理学に関する講習会」、「細胞診講習会」を確実に受講してください。剖検講習会は春の総会時に開催されています。受講者は事前に病理学会HPに掲載される「剖検講習会について」を確認してください。受講前までにHPに掲載されている課題に対するレポートの提出が必要です。
  - ・CPCレポート：4症例分が必要です。臨床経過、臨床上の疑問点、病理写真を含む病理所見、考察、死に至る病態のフローチャートまでを含んでいる必要があります。パワーポイント形式・word形式いずれでも構いません。
  - ・JMSB Online System+(日本専門医機構研修システム)での研修修了申請について(2018年度以降の研修開始者のみ)：対象者は受験申請前までに、「研修修了申請」を行いプログラム責任者に「研修修了申請」の承認を受けてください。
- 研修は原則として基幹施設と連携施設で行う必要があります。ただ、基幹施設のみ、あるいは連携施設のみで研修を行なった場合でも、週1回程度、他施設で研修を行うことで研修修了できる場合があります。例えば連携施設のみで研修している人は基幹施設に3年間週1回研修しに行った場合、6ヶ月相当の基幹施設での研修と同等とみなされます。基幹施設のみで研修している人は連携施設で15ヶ月週1回研修することで、3ヶ月相当の連携施設での研修と同等とみなされます。メインで研修している基幹施設または連携施設から週1回で連携施設または基幹施設へ研修に行くこの場合、システムの備考欄に週1回研修の施設名と研修期間を記載していただく必要があります。備考欄が空欄で単一の研修施設の登録だけの状態では日本専門医機構で研修修了の承認がされず、試験合格後も認定証が発行されません。登録方法の詳細は以下よりご確認ください。
- ([https://www.pathology.or.jp/senmoni/jmsb\\_system.pdf](https://www.pathology.or.jp/senmoni/jmsb_system.pdf))

### 3. 病理専門医受験に役立つ会員向けコンテンツ

- ・生涯教育

<https://e-learning.pathology.or.jp/course/index.php?categoryid=5>  
過去のII型問題を用いて作成されています。

- ・剖検講習会

<https://e-learning.pathology.or.jp/course/index.php?categoryid=13>  
過去のIII型問題が掲載されています。

### 4. 2026年度の病理専門医資格更新について

申請は電子申請と郵送申請の選択制です。大多数の電子申請者からは、電子申請して楽になったとの声を頂いていますが、電子申請の際には受講証などの書類をpdf化する必要があります。

2026年度の更新対象者には9月ごろ病理学会会員システムのメールアドレスへ、電子と郵送のいずれかを選択するメールが届きます。選択後に、それぞれの手続きが案内されますが、メールでの回答がない場合やメールが不達の場合は自動的に郵送申請になります。更新手続きの詳細は(<https://pathology.or.jp/senmoni/koushinkijun.html>)をご確認ください。

### 5. 希少がん e-learning・希少がん病理診断講習会について

病理学会では「厚生労働省国庫補助金事業」による財政支援のもと、2018年度より希少がん診断のための病理医育成事業を実施しています。希少がん e-learning (希少がん病理診断画像問題・解説) は職場あるいは自宅でも学習可能で、専門医更新のための領域講習の単位になります。「疾患名入力」により、逆字引きとして画像、解説を参照することも可能です。是非ご活用頂き、日常診療および希少がんの病理診断力の向上にお役立て下さい。

- ・現在(11月時点)は骨軟部腫瘍(31コース)、脳腫瘍(20コース)、小児腫瘍(29コース)、頭頸部腫瘍(28コース)、皮膚腫瘍(28コース)、リンパ腫(31コース)、希少サブタイプとして婦人科と乳腺が各4コースずつの全175コース(1コース:10問)あります。
- ・8割(8問)以上の得点で合格となり、1コースにつき領域講習1単位が認定されます。ただし、専門医更新の病理領域講習に使えるのは最大15単位までです。
- ・8問以上をクリアするまで何度でも繰り返し受講することができます。
- ・取得単位は病理学会会員システムに自動的に反映され、更新の際に単位を印刷や添付するなどの手続きは不要です。
- ・希少がん事業ホームページ「コースカテゴリ」から会員システムのID、PWを用いてログインし、履修することができます。

<https://rarecancer.pathology.or.jp/>

- ・「希少がん病理診断講習会」が年間5回開催されています。いずれも事前予約のWEB開催です。全て受講した者には以下単位が付与されます。

- 病理専門医(更新) = 病理領域講習4単位
- 口腔病理専門医(更新) = 生涯学習単位5単位
- 病理専攻医(受験) = 「病理組織診断に関する講習会」

### 6. 専門医研修制度について(再掲)

専攻医の採用が決定しましたら、プログラム制・カリキュラム制を問わず、専攻医自身が確実に専門医機構へ専攻医登録をしてください。登録時期は研修開始年度前年の秋(11月頃)です。登録が遅れた場合の猶予はなく、1年単位で専攻の修了が遅れることになり、かつ未登録時点での経験症例はカウントされません。採用が決まった時点で直ちに専門医機構への登録も忘れずをお願いします。

### 7. 分子病理専門医認定制度について

- ・分子病理専門医認定者名簿を掲載しています。2026年4月1日認定者も追加されています。

<https://www.pathology.or.jp/senmoni/certified-pathologist.html>

- ・2025年度第6回分子病理専門医試験は12月14日(日)に実施されました。

### 8. 研修終了後の受験年限について(日本専門医機構より)

これまで日本専門医機構からは、専門医研修終了後から原則5年間の間に専門医認定試験に合格しなければならないとされてきました(留学、病氣療養、妊娠・出産等を除く)。しかし、各領域への周知不足を理由に、1年間延長が可能(つまり6年間)となりました。この措置がいつまで適応されるのか等ははまだ未決定ですので、関係する先生は今後の情報をお待ちください。

### 9. 日本病理学会 新施設制度のご案内

日本病理学会は現在の病理専門医研修認定施設、病理専門医研修登録施設制度を終了し、新たな施設制度での認定を開始いたします。新施設制度では、病理医が関わっている医療機関を幅広く認定いたします。多くの医療機関からの申請をお待ちしております。

- \* 病理医が関わっている医療機関を「日本病理学会認定施設」として認定
- \* 各施設が単独で申請可能
- \* 新施設制度は2027年4月1日より認定開始  
(現制度での施設認定は2027年3月31日で終了)

認定基準細則はこちらからご確認ください。

[https://www.pathology.or.jp/senmoni/ninteishisetsu\\_new251112.pdf](https://www.pathology.or.jp/senmoni/ninteishisetsu_new251112.pdf)

本学会の施設認定は、これまで剖検(解剖)を行う施設を対象としてきましたが、より社会に開かれた制度へと刷新します。本制度は以下の2点を柱とし、専門医育成と同時に、国民の皆様へ病理診断の重要性を広くお伝えすることを目指しています。

1. 適切な医療を提供する病理診断実施機関の認定
2. 日本専門医機構のプログラムに基づく研修施設の整備  
(基幹・連携・関連施設の基準制定)

新たな施設認定は、日本専門医機構の専門研修プログラムに

おける基幹施設、連携施設、関連施設を認定する基準となるため、研修施設に含まれる予定の医療機関は必ずご申請ください。

#### 【概要】

新規認定料・更新料：10,000 円

認定期間：3 年間

認定証の発行：有

年報登録：必須

NCD 剖検登録：剖検実施施設は必須

親施設制度：なし（各施設が独自に申請可能）

#### 【初回認定までのスケジュール 予定】

2026 年 9 月 1 日～10 月 31 日 申請受付期間

2027 年 2 月中旬～3 月末まで 審査を経て認定証送付

2027 年 4 月 1 日 認定開始・認定施設一覧を HP 掲載

申請受付に関する詳細は 2026 年 6 月頃、HP にてご案内予定です。

※現行制度において認定施設・登録施設として認定されている医療機関についても、新施設制度では改めて申請が必要です。

（現行制度からの自動移行は行われません）

#### 【新施設制度フライヤー】

[https://www.pathology.or.jp/senmoni/ninteishisetsu\\_flyer.pdf](https://www.pathology.or.jp/senmoni/ninteishisetsu_flyer.pdf)

#### 【新施設制度に関する HP 記事】

<https://www.pathology.or.jp/senmoni/nintei-shinseido.html>

#### 10. 専門医制度に関わる名称変更について

2025 年 11 月 12 日の理事会で以下名称の変更が承認されましたのでお知らせいたします。

- ・病理専門医研修指導医 → 病理専門研修指導医
- ・病理専門医研修指導責任者 → 病理専門研修指導責任者
- ・病理専門医研修 → 病理専門研修
- ・病理専門医研修手帳 → 病理専門研修手帳
- ・病理専門医施設審査委員会 → 病理学会認定施設審査委員会
- ・病理専門医研修プログラム審査委員会 → 病理専門研修プログラム管理委員会

#### 11. 病理専門医の名称について

日本専門医機構認定の病理専門医の正式名称は以下の通りです。

- ・日本専門医機構認定病理専門医

HP 等に記載の際には上記名称をご使用ください。

#### 12. 今後の日程について（予定）

2026 年 4 月 20 日（月）～5 月 15 日（金）胃癌病理診断アップデート講習会：改定 WHO 分類・規約分類ポイント解説※オンデマンド配信

2026 年 4 月 16 日（木）～18 日（土）

第 115 回総会（札幌）

2026 年 6 月 7 日（日）

第 1 回希少がん病理診断講習会（Web）

2026 年 7 月予定

第 16 回ゲノム病理標準化講習会（オンデマンド配信）

2026 年 7 月 17 日（金）～18 日（土）

第 22 回日本病理学会カンファレンス（熊本）

2026 年 7 月 26 日（日）

第 16 回分子病理専門医講習会（Web）

2026 年 8 月 8 日（土）

第 2 回希少がん病理診断講習会（Web）

2026 年 8 月 22 日（土）～23 日（日）

病理専門医試験・口腔病理専門医試験（東京）

2026 年 9 月 6 日（日）

第 3 回希少がん病理診断講習会（Web）

2026 年 9 月 12 日（土）～13 日（日）

第 20 回診断病理サマーフェスト（福島）

2026 年 9 月 19 日（土）

第 17 回分子病理専門医講習会（Web）

2026 年 9 月 26 日（土）

エキスパート育成講習会「婦人科」（東京）

2026 年 10 月 8 日（木）～9 日（金）

第 72 回秋期特別総会（福岡）

2026 年 11 月 1 日（日）

エキスパート育成講習会「泌尿器」（東京）

2026 年 11 月 28 日（土）

第 4 回希少がん病理診断講習会（Web）

2026 年 12 月 13 日（日）

2026 年度第 7 回分子病理専門医試験（東京）

2027 年 1 月 9 日（土）

第 5 回希少がん病理診断講習会（Web）

2027 年 1 月 16 日（土）～17 日（日）

細胞診講習会

2027 年 1 月 24 日（日）

希少がんエキスパート育成講習会「肝胆膵」（東京）

2027 年 2 月 6 日（土）

希少がんエキスパート育成講習会「皮膚腫瘍」（東京）

2027 年 2 月 21 日（日）

希少がんエキスパート育成講習会「乳腺」（東京）

2027 年 2 月 27 日（土）

希少がんエキスパート育成講習会「消化管」（東京）

2027 年 3 月 7 日（日）

第 6 回希少がん病理診断講習会（Web）

※【日程調整中】分子病理更新講習会、分子病理診断講習会・希少がん診断のための病理医育成事業では引き続き希少がん病理診断講習会を実施しております。2026 年度は開催回数を 1 回増やし、全 6 回開催いたします。

すべて事前申込制で、定員以上の申し込みの場合は抽選となります。希少がん HP (<https://rarecancer.pathology.or.jp/>)

でご確認ください。希少がん・病理診断講習会は、病理専門医資格更新の病理領域講習として認定されております。また専門医受験に必要な病理診断に関する講習会としても認められております。また、2027年度は5～6領域にて主に若手を対象としてエキスパート育成講習会を原則対面で開催予定です。

(文責：森井英一・大橋健一・粕雄一朗・中黒匡人)

== 特集 定年退職された病理医の現在 =====  
病理医の開業と受託診断

伊達赤十字病院検査部 長谷川 匡

大学病院を退職後、現在は地方病院に病理医として勤務しております。以前と比べて時間に余裕が持てるようになったことを機に、組織から独立して診断業務を行う「病理医開業」を始めました。

病理医が独立する形態の一つに、無床診療所として「病理診断科クリニック」を開設する方法があります。他院から標本(スライド等)を受け取ることで、保険診療としての「病理診断料」を算定できるようになりますが、これには医療法上の「診療所」としての施設基準を満たす必要があります。一方、より一般的なのは、個人事業主(フリーランス)として衛生検査所の嘱託医となり、検査センターから診断業務を受託する形態です。私のように地方に居住している場合、近年のWSI(Whole Slide Imaging)をはじめとするデジタル画像診断の普及は、物理的な標本輸送を介さずに自宅等で診断ができるという大きなメリットをもたらしています。

実際には、検査センターから「自宅モニターでの診断」を依頼されるケースは増えつつあるものの、依然として「郵送によるアナログ顕微鏡診断」が主流です。これは、センター側が全症例をスキャンするためのコストや、ターンアラウンドタイム(TAT)への影響を懸念しているためと考えられます。

現在、私は自宅に顕微鏡を構え、検査センター1社と契約して、自身のペースを維持しながら受託診断を行っています。このスタイルは、ワークライフバランスと専門性の発揮を両立できる、病理医にとって理想的な独立形態の一つであると感じています。

しかし、今後5～10年の間には、AI診断補助の普及や物流コストの上昇といった環境の変化が予想されます。デジタル画像化が進めば、AIによるスクリーニング(見落とし防止)の併用が可能になります。また、物流の「2024年問題」以降、配送コストの高騰や輸送時間の遅延が顕在化しており、センター側が「郵送よりもスキャンして送る方が効率的である」と判断する時期が来るかもしれません。事実、一部の外資系や大手検査センターでは、当初から在宅デジタル診断を前提とした嘱託契約を増やしています。現状では、契約先からデジタル化の提案がない限りアナログ顕微鏡を軸に据えるのが合理的で

すが、時代の変化には注視が必要です。

将来的には、現在の「検査センター経由の業務委託(自由契約)」に加え、自宅を医療法上の「診療所」として登録し、「病院との直接提携(連携病理診断による保険診療)」へシフトすることも、選択肢として検討しておくべきでしょう。そうすることで、病理医としての自立性をより強固なものにできると考えています。

-----  
医学教育改革

弘前大学大学院医学研究科 医学教育学／

人体病理学・病理診断学講座

鬼島 宏

我々が学んだ昭和の医学教育は医学進学課程2年間(教養教育)と専門課程4年間に分かれていましたが、1991(平成3)年の大学設置基準大綱化により正式に医学部6年一貫教育となりました。しかしながら平成の時代になっても、教養教育に続いて基礎医学を学んだ後に、臨床医学を学修し、さらに医学部附属病院で臨床実習を行うという教育プログラムが継続されてきました。時代は下り、国立大学の法人化と時期を同じく2004(平成16)年からは大学等の高等教育機関は、質保証のために第三者による機関別認証評価が義務付けられました。医学部においても、医学教育の質を国際的見地から保証するための医学教育分野別認証評価制度が実施されるようになり、現在は82大学全てが日本医学教育評価機構(JACME)による認証評価を受審しています。

最近の医学教育はモデル・コア・カリキュラムを基盤としたアウトカムベースで、学部卒業後はシームレスに卒後臨床研修に移行できることが求められています。平たく言うと、学問を教員から学生へ教授するのではなく、学生が自らの学び(学修)の中で求められる医師へと成長するということです。ですので、低学年(早期)から臨床に触れながら必要な知識を学び、高学年では診療参加型臨床実習に移行する必要があります。「診療参加型」というと学生に多くの手技をやらせると誤解されがちですが、そうではありません。最も大切なのは、診療チームの一員として治療方針に直結する「臨床推論」がしっかりと実践できるかということです。ここで「病理学」の大きな出番(役割)があります。臨床病理検討会(CPC)における「病態流れ図」は臨床推論の最も良いトレーニングになっているかと思います。先生方には、学生の限られた授業時間の中で、学問としての病理学・病理診断学を教授するのではなく、「臨床推論」に直結するCPCの醍醐味を伝授していただきたいと願っています。

医学教育の変遷の中、私個人は1984(昭和59)年大学卒業後、一貫して病理学の教育研究・診断に従事してきました。縁あって、定年2年前の2022(令和4)年から定年後の現在まで医学教育学講座所属となり、エフォートの大部分でアウトカムベ

医学/歯学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）概要

- 各大学が策定する「ガキキュラム」のうち、全大学で共通して取り組むべき「コア」の部分を抽出し、「モデル」として体系的に整理したもの。
- 初版は平成13年3月に策定。医療を取り囲む環境変化に伴い改訂（平成19年度、22年度、28年度）。
- 学生が卒業時までに身に付けておくべき必須の実践的診療能力（知識・技能・態度）に関する学修目標を明確化。
- 学生の学修時間数の医学:3分の2程度、歯学:6割程度を目安としたもの（現行は各大学の特色ある独自のガキキュラムを実施）。

「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」

人口減地域の増加  
高齢化率の上昇  
新興感染症・災害リスクの増大  
新規科学技術の台頭

「医師/歯科医師に求められる基本的な資質・能力」を共通化（※学系別別）

PR. プロフェッショナリズム	IT. 情報・科学技術を活かし能力
GE. 総合的に患者・生活者を見る姿勢	CS. 患者ケアのための診療技能
LL. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢	CM. コミュニケーション能力
RE. 科学的探究	IP. 多職種連携能力
PS. 専門知識に基づいた問題解決能力	SO. 社会における医療の役割の理解

スの医学教育改革に携わっています。具体的には、医学教育分野別認証評価制度への対応、共用試験（CBT, PreCC OSCE, PostCC OSCE）の運営に加えて、地域医療教育に焦点を当てたポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業（全国11拠点の1つ）のコーディネーターを担っています。令和の時代は、地域・社会から求められる医療人材の育成が不可欠ですので、今後も地道に頑張っってゆきたいと思います。

定年後の病理医

順天堂大学大学院医学研究科 運動器疾患病理学講座 岡田 保典

「70歳までは大体大丈夫ですが、75歳を過ぎるとだいぶ少なくなりますね。80歳以降では、ごく一部の選ばれた人だけでしょう。」これは私が60歳頃、「定年後は何歳くらいまで仕事ができるものでしょうか」と老年内科の先生に尋ねたときの答えである。当時はまだ遠い未来の話のように聞いていたが、今年の4月で77歳になる今、「その通りだなあ」と感心している。

大学や病院では65歳で定年を迎えることが多いが、その後の過ごし方は人それぞれである。これまでの仕事をそのまま続ける人もいれば、まったく別の分野に挑戦する人もいる。また、仕事から離れて趣味や旅行を楽しむ人もいる。「名は体を表す」の通り、私の場合は、これまでの仕事を継続する道を選んだ。慶應義塾大学病理学教室を定年で離れてから、順天堂大学整形外科の共同研究講座で研究を続けており、11年が経過した。

本研究講座での主要研究対象は、変形性関節症などの運動器疾患である。整形外科の先生方と共同で研究を進めているが、振り返ってみると、私の博士論文は「マウス滑液膜の発育と超微構造」であった。つまり50年以上同じような領域の研究を続けていることになる。研究を通して国民の健康寿命延伸に貢献することが本講座の目標であり、若い大学院生の奮闘により一定の成果を挙げている。

一方で、週に1回ではあるが川崎市立病院で外科病理診断に関わっている。整形外科から提出される症例も比較的多く、研究とはまた違った意味で刺激的である。病院にどれほど貢献で

きているかは分からないが、自分にとっては病理医としての実感が持てる大切な時間であり、病理診断から学ぶことも少なくない。

年齢とともに上昇するものといえば、血圧、脂質、血糖、尿酸など、有り難くないものばかりである。その一方で、咀嚼力（歯）、視力（眼）、そして知力や認知力は少しずつ低下していく。人間の臓器はどの臓器も鍛えることはできないが、唯一の例外が筋肉である。私は20代の頃から週2回ほど筋トレを続けている。70代に入ってから思い切って重量を上げてみたところ、ベンチプレスは80kgまで上げられるようになった。若い頃は60kg台だったので、むしろ今の方が強くなっている。年を重ねて唯一成長した事例であり、やはり「筋肉はうそをつかない」ことが証明でき、大変嬉しく思っている。筋肉からは多種類のマイオカインが産生・分泌され、爽快感や気力が湧いてくる。

体力、気力、知力がどこまで維持できるかは分からないが、今のところ80歳までは研究を続けたいと思っている。その先のこと、その時の調子次第である。

定年後の生活

JA 三重厚生連鈴鹿中央総合病院 村田 哲也

2025年3月末で定年退職となり、引き続き同じ病院で臨床検査専門医として勤務しています。そろそろ1年が過ぎましたので状況を振り返ってみましょう。

まず、体は大いに楽になりました。昨年度までは副院長として院内の管理業務に加え、多くの委員会（臨床研修、臨床倫理、感染対策、教育、診療録管理、接遇）の委員長としての業務がありました。臨床研修、感染対策と臨床倫理の仕事は残りましたが、他の委員長業務と管理業務からは解放され、会議が激減しました。また病理医の仕事は「診断」業務であるため1例1例に診断の責任がありますが、臨床検査は骨髄像など一部を除いて診断ではなく「判断」業務であるため、責任感も激減しました。迅速診断や剖検からも解放されたため、休暇を取ることが容易になりました。このようなわけで、今では定時に帰宅して家事を行いつつ就寝時間も早くなるという、実に健康的な生活を送っています。妻との旅行も増え、私生活の満足度も向上しました。

ところで、検体管理加算をご存じでしょうか。今回、私が臨床検査に鞍替えした最大の理由は検体管理加算Ⅳの取得にあります。要件がいろいろとあるのですが、最大の要件は臨床検査に専従する常勤医師がいることです。別に専門医でなくてもいいのですが、せつかくダブルボードとして臨床検査専門医資格もあるので、院長からの依頼もあってこれを生かすことになりました。入院患者が検査をすると、1回の入院について500点の加算がされます。検査をしない入院はほぼないため、当院では年間約1万人の入院がある、と言うことは単純計算で5,000万円の増収につながるというわけです（実際には人件費や従来

とっていた検体管理加算Ⅱとの差額を計算するとそんなに増収となるわけではありませんが)。とても美味しい加算ですがこれには条件があり、登録した検査医は検査以外の医療業務を同一施設で行ってはいけないという縛りがあります。このため私は院内では病理診断から完全に離れています。とはいえ、病理専門医の資格更新のために病理診断を続ける必要もあるので、今は週に半日、近隣の病院で病理診断を行っています。正直、週一のパートタイム病理医と月例の東海病理医学会だけでは、診断の勤が鈍るのは否定できません。やはり毎日の診断実務が前線に立つ病理医には必要であると実感する今日この頃です。

65歳を超えると高齢者と呼ばれます。10年ほど前に孫ができ爺になった時には歳を感じることはなかったのですが、65歳になって行政からくる文書すべてに「高齢者」の頭文字がついてくるのは正直ムカッときますね。肺炎球菌ワクチンも単にそういえばいいのに、わざわざ「高齢者肺炎球菌ワクチン」と書いてくるのですから。まあ、実際年寄りの仲間入りをしたのですから、この用語にもポチポチ慣れていかないとイケませんね。

#### 定年退職した病理医の今：さとるが先かボケるが先か

倉敷成人病センター 病理診断科 中本 周

上記お題で寄稿依頼を頂きました。これを機に私の今に思い巡らしてみます。中学時代に始めたサッカーは、大学卒業後も社会人チームや少年サッカーに関わるなど、私の人生の骨格の一つであります。50歳代からは鳥取県チームにも加えて頂き、Over60の大会では中国地区予選を勝ち抜き、全国大会に出場しました。ボールを蹴る魅力もさることながら、多様な職業の方々と密に交流し、少年サッカーでは多数の子供達やその親御さんと深く関わったことは、私の視野を広げ、私のサッカー愛をますます深化させました。写真はねんりんピックで優勝した時の仲間です（後列左から3番目が小生）。72歳時の怪我を機に現役を離れサポーターに専念していますが、折あらば再度ボールを蹴ることを夢見ています（なんと東京にはOver90のチームがあると聞いています）。

スキーも私のCoreの一つであり志賀高原などに数多く通い、直近では70歳時に家族と満喫してきました。この年末には私



のホームグレンデの氷ノ山に出向き、旧知のつくよね山荘の主人と生存確認をしたばかりです。かの三浦敬三さんは99歳でモンブランを滑走したとか。私には無理と思いつつ、人生の師の一人でもあります。

囲碁は自称5段。この2月には医師会の囲碁大会で3位入賞を果たしました。囲碁は盤上の小宇宙と言われており、細部での知的バトルと同時に大局観が求められ、奥が深く脳活にはもってこいです。但し、これも勝負する仲間があってこそであります。

以上、私の趣味歴をご披露しました。音楽など感情表現型趣味を持ち得ていないことは少し残念ですが、これらは今後も私を駆り立てるでしょうから、「さとりやボケ」はもう少し先のことになりそうです。

さて、本務の仕事についても少し触れましょう。鳥取県立中央病院には定年延長を含め38年間奉職しました。「好奇心・探求心・先見性を持ち続け、①患者 ②職員 ③病院のためになるならば何でもする」をモットーに、造血管腫瘍などを主戦場に組織診や細胞診に加え、集学的診断に注力し、さらに表在臓器（リンパ節、乳腺、甲状腺など）の超音波検査や検体採取にも取り組んできました。常勤病理医3人と同僚にも恵まれ、実に充実した38年間でありました。節目の70歳を迎えるにあたり、後進に道を譲る時期ではなかろうか、違った世界への挑戦も面白いかも、と思案していたところ、タイミングよくお声を頂き、現在の倉敷成人病センターに赴任しました。この病院はDaVinch/Hinotoriが4台ある外科系病院で、婦人科手術は1,000件以上/年、細胞診は2万件以上/年などと予想通り実にタフな病院です。私にとってはまさに新世界であり、「さとりやボケる」余裕はなく奮闘しているところです。

この場をお借りして、ここまで私を支え・導いて下さいました鳥取県立中央病院の皆様、岡山大学の病理学教室の皆様（特に松川昭博教授）、倉敷成人病センターの皆様（特に大森昌子部長）に心から深謝します。

最後に私の恩師の言葉を付記します：What's new?

#### 「一生勉強」楽しい毎日

福岡山王病院 病理診断科 顧問  
国際医療福祉大学大学院・特任教授  
九州大学名誉教授（医学研究院・形態機能病理）  
恒吉 正澄

九大を定年退職後、福岡山王病院病理診断科に勤務して17年目になる。さて、九州沖縄スライドコンファレンス（以後スラコン）は病理診断の研究会で発足して68年になり、第400回が2024年7月6日JCHO熊本総合病院で開催され、その際に依頼された「わが心のふるさと“スラコン”いつまでも」と題した記念講演をベースに50数年に及ぶ病理医として病理診断に取り組む私のフィロソフィーについて現在勤務している福

岡山王病院での経験や九州大学第2病理（形態機能病理）での研究から述べてみたい。まず、私は九大教授在任中、スラコンの世話人を1991年から2009年までの18年間担当した。大学と一般病院という二つの異なる場における病理診断業務の双方を経験して思うことは、大学での研究生活は診断力向上に有益であるし、一般病院での病理医は臨床との距離の近さで病理医の醍醐味を味わえる。またスラコンにより多くの各地の病理医との知遇を得て広がった人的ネットワークは大きな財産である。私の九大病理における研究は、Clear cell sarcoma（明細胞肉腫）の研究が学位論文になった。当時の軟部腫瘍の大家であるEnzingerは同腫瘍を滑膜細胞起源と唱えていた。しかし、私が電顕でメラノソームを検出し“Malignant melanoma of soft part”をCancer（1978）に提唱し、WHO分類にも採用され、広く受け入れられた。また、骨病理の世界的権威者Dorfman教授の下での米国留学時、肺、肝、軟部などで報告され、組織像は癌腫に間違えられ易い類上皮血管内皮腫に関連して、Epithelioid hemangioendothelioma of boneをAJSP（1986）に報告した。第三に悪性ラブドイド腫瘍Malignant rhabdoid tumor（以下MRT）は小児腎腫瘍の中でも予後不良型とBeckwithは提唱したが、軟部組織の領域でMRT of soft partという新しい疾患単位を発表した（Hum Pathol 1985）。九大二病理の教授就任に際して新しい疾患単位の追及と横断的な発想を重視して研究を進めることにした。骨軟部、消化器、肝胆膵、婦人科、泌尿器疾患などの臓器別に研究グループを編成した。MRTの発展的な研究はラブドイド細胞がMRT以外の肉腫や癌腫（胃癌、腎癌）に出現し、そのような例は予後不良であることを報告した。私の教授在任中の英文原著の数は消化管192編、骨軟部小児161編、肝胆膵131編、その他51編である。「Surgical Pathology」の著者であり、外科病理学の天才とされるRosaiと被爆甲状腺疾患の研究で親交のある長崎医療センター伊藤部長からのメールで、Rosaiから「日本の恒吉の論文は質量共に素晴らしい」と評価された由である。これは大変誇らしいことで、共に研究に励んだ教室員に深く感謝する。現在、私は小田教授の九大形



態機能病理の支援を受けて、福岡山王病院病理診断科で大屋部長と臨床検査技師の方々を含むチームの一病理医として自然体で“一生勉強”の充実した毎日を送っている。そして今なお自分の病理診断が進化しているのを実感している。一方、テニス、映画、音楽などの趣味も楽しんでいる。

## “二足のわらじ” 人生（医学と音楽）

鹿児島大学名誉教授（医学部・病理学）

鹿児島市医師会病院病理部・顧問

キラメキテラスヘルスケアホスピタル

トータルウェルネスセンター・医師

米澤 傑

私は、「医学」では、2010年の第99回日本病理学会総会において、4月28日に、宿題報告講演「ムチン：ヒト癌における臨床病理学的意義と遺伝子発現機構の解明から腫瘍悪性度早期診断システムの構築まで」を行い「日本病理学賞」を受賞した。研究成果のまとめスライドに、私がカラフ王子を演じているオペラ「トゥーランドット」の画像を使用した（図1）。その翌日4月29日には、京都会館開館50周年記念「第九演奏会」（指揮：井上道義・京都市交響楽団）で、テノールのソリストを務めるという綱渡りをした。まさに「二足のわらじ」の典型である。さらに、「高松宮妃癌研究基金助成金」を受領し、がんマーカー論文の著者世界ランキング第6位（日本人第1位）の実績を持つ。

定年退職後の現在は、『病理専門医』としての病理組織診断に加え、年間1万数千件の健診における診察と、30を超える企業の産業医としての『臨床医学』と『社会医学』の職務も行っており、「医学・医療」だけでも、“三足のわらじ”を履いていることになり、年間10回を超える全国各地でのコンサートに出演する「音楽活動」を加えると、“四足のわらじ”を履いている。

「音楽」では、「日本クラシック音楽コンクール」声楽部門第1位・グランプリ。「太陽コンコルト・カンツォーネ・イタリアーナ」優勝。平成10年度「鹿児島県芸術文化奨励賞」。CD「誰も寝てはならぬ/米澤 傑 テノール・オペラアリア集（G. ステューファン指揮・ソフィア国立歌劇場管弦楽団）」（図2.「CD/DVDのご案内」の中央）のヒットチャートでの度々の第1位。オペラ「トゥーランドット」の主演・カラフ王子（図1、図2.「CD/DVDのご案内」の右側）。

私の音楽活動の発展は、奇跡ともいえる“出会い”と“ご縁”による。

1985年の「かごしま県民第九演奏会（指揮：井上道義）」でテノールソリストを務めた翌年、NHKの“第九をうたおう”（図3）への出演をきっかけに、全国各地での「第九」のソリストは100回を超える。

「第九」アジア初演の地・私の故郷の「鳴門の第九」におい

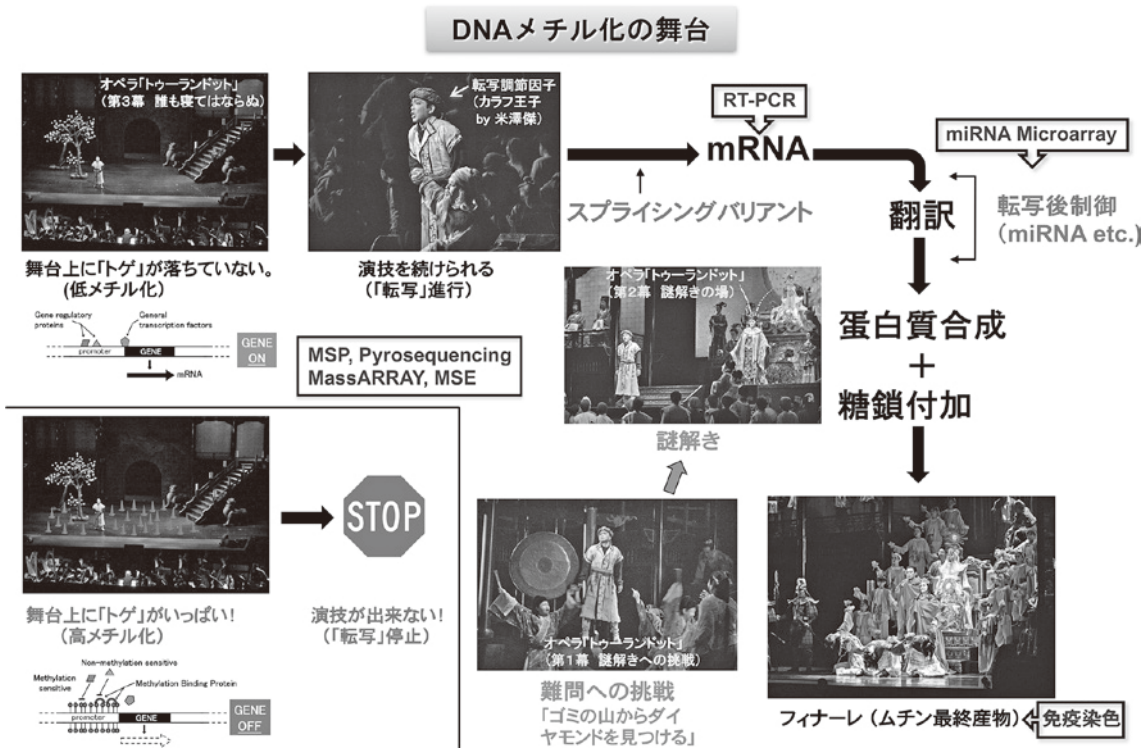


図1: 宿題報告講演に使用した研究成果のまとめスライド

<p><b>CD</b></p> <p>「米澤 傑 テノール ライブ」</p> <p>新発売</p> <p>誰も聴いたことのない歌声! 世紀のテノール 米澤 傑 白熱のライブ (音楽プロデューサー 中野 雄)</p> <p>税込定価 ¥2,000</p>	<p><b>CD</b></p> <p>「米澤 傑 テノール・オペラアリア集」</p> <p>聴け、これがテノールだ! 一級のテノールをきいたときだけに 味わえる至福の瞬間! (音楽評論家 黒田 恭一)</p> <p>税込定価 ¥3,143</p>	<p><b>DVD</b></p> <p>「トゥーランドット」 ベリオ版・日本初演</p> <p>総監督: 畑中 良輔 指揮: 若杉 弘 演出: 栗山 昌良 カラフ王子: 米澤 傑</p> <p>税込定価 ¥2,096</p>
---	--	---

「十字屋クロス」店頭 or 検索「楽天市場 米澤傑」

図2: CD/DVDのご案内

て共演した国際的ソプラノ歌手の松本美和子先生のご紹介で、イタリアの高名なオペラプロデューサーのジャンフランコ・パスティネ先生に私の歌声をお聴きいただいたところ、お二人が「歌手に転向してのイタリアデビュー」を強力にお薦めくださったが、私が医学の道を変えないと申し上げてご了解を頂いた。

幸運な“出会い”と“ご縁”が、一流の指揮者や交響楽団との共演、オペラ「トゥーランドット」への主役出演、さらには、マルティヌッチやジャコモニといった世界一流の歌手とのジョイントリサイタルへ発展し、ニューヨークの音楽記者が『米澤の歌った「清きアイダ」の最後の高音は、メトロポリタン歌劇場でも聴いたことのない素晴らしいものであった』と世界

中に発信した。

2004年のゴールデンウィークに、ソフィア国立歌劇場管弦楽団との共演で、4日間連続で15曲の収録を行い、CD「誰も寝てはならぬ/米澤 傑 テノール・オペリア集 (図2.「CD/DVDのご案内」の中央) をリリースでき、このCDは、度々、ヒットチャート第1位を達成した。

「医学」と「音楽」の共通点は、まさに「長〜い苦しみ、一瞬の喜び」である。

「医学」では、英文論文を国際医学雑誌に投稿しても、「査読」で指摘された改訂点について論文を書き直すという「長〜い苦しみ」を体験した後、「Accept (採用)」という通知を得た瞬間が「一瞬の喜び」である。

「音楽」も同様で、その典型が、オペラ「トゥーランドット」の主役・カラフ王子役で (図1、図2.「CD/DVDのご案内」の右側)、公演の2年前にお話を頂き、全曲楽譜とCDを購入し、歌詞とメロディを覚え込んだ。本番4ヶ月前から週末の藤沢での「舞台稽古」が始まり、医学部教授の仕事との“二重生活”が続いた。本番で、カラフ王子役を歌い演じきり、幾度にもわたる“ブラボーの嵐”のカーテンコール・・・まさに「長〜い苦しみ、一瞬の喜び」の典型例である。



図3-1: NHK“第九をうたおう”のテキスト

== 支部報告 ==  
-- 北海道支部 -----

北海道支部会報編集委員 杉田 真太郎

学術活動報告

2026年1月31日(土)、第212回日本病理学会北海道支部学術集会(標本交見会)が太田聡先生(手稲溪仁会病院 病理診断科)のお世話のもと、手稲溪仁会病院 Kビル 201, 202号室/Zoom(ハイブリッド)において開催されました。特別講演として大橋瑠子先生(新潟大学医歯学総合研究科 分子細胞医学専攻 遺伝子制御 教授)に「腎腫瘍の病理診断のポイント」と題したご講演をいただきました。また、四十物絵理子先生(LUMIPATH Clinic)に「開業病理の挑戦: デジタル技術活用とワークライフバランス実現への道」と題したお話をいただきました。なお、症例検討は以下の通りです。

症例検討

症例番号/演題名/発表者/発表者の所属/症例の年齢/症例の性別/臓器名(主なもの)/発表者の病理診断

25-18: 中年男性に生じ、小型細胞の増殖する領域を伴った腎腫瘍の1例/中桐悠一郎<sup>1</sup>、山口貴子<sup>1</sup>、真田美和<sup>1</sup>、井上彩乃<sup>1</sup>、仲川心平<sup>1</sup>、古屋充子<sup>1</sup>、三浪圭太<sup>2</sup>、林 博之<sup>3</sup>、辻 隆裕<sup>1</sup>/市立札幌病院病理診断科、<sup>2</sup>市立札幌病院泌尿器科、<sup>3</sup>原三信病院病理診断科/40歳代/男性/左腎臓/

Chromophobe renal cell carcinoma



図3-2: NHK“第九をうたおう”のソリスト

25-19: 右腎腫瘍の一例/井上彩乃<sup>1</sup>、眞田美和<sup>1</sup>、山口貴子<sup>1</sup>、仲川心平<sup>1</sup>、古屋充子<sup>1</sup>、吉田あゆ<sup>2</sup>、三浪圭太<sup>2</sup>、小島史好<sup>3</sup>、辻 隆裕<sup>1</sup>/市立札幌病院病理診断科、<sup>2</sup>市立札幌病院泌尿器科、<sup>3</sup>和歌山県立医科大学人体病理学講座/70 歳代/男性/右腎臓/

Renal cell carcinoma with fibromyomatous stroma and hemangioblastoma-like areas

25-20: 高齢男性に生じた好酸性腎腫瘍の一例/眞田美和<sup>1</sup>、井上彩乃<sup>1</sup>、山口貴子<sup>1</sup>、仲川心平<sup>1</sup>、古屋充子<sup>1</sup>、三浪圭太<sup>2</sup>、辻 隆裕<sup>1</sup>/市立札幌病院病理診断科、<sup>2</sup>市立札幌病院泌尿器科/70 歳代/男性/左腎臓/

Chromophobe renal cell carcinoma, oncocytic variant

25-21: 40 歳代女性の胎盤病変/市村多恵<sup>1</sup>、堀川輝久<sup>2</sup>、下村浩基<sup>3</sup>、菊地慶介<sup>1</sup>/<sup>1</sup>JA 北海道厚生連帯広厚生病院 病理診断科、<sup>2</sup>JA 北海道厚生連帯広厚生病院産婦人科、<sup>3</sup>JA 北海道厚生連帯広厚生病院小児科/40 歳代/女性/胎盤/

Transient abnormal myelopoiesis involving the placenta

25-22: 非典型的な形態を示す造血器腫瘍の一例/多田聡法、菊地智樹、小幡雅彦/旭川赤十字病院病理診断科/50 歳代/女性/造血器/

Plasma cell myeloma, plasmablastic variant

25-23: 免疫抑制剤投与下 SLE 患者に認められた子宮病変/高橋利明<sup>1</sup>、大塚紀幸<sup>1</sup>、鈴木裕太郎<sup>2</sup>、小野寺麻希<sup>3</sup>、田中伸哉<sup>1,4,5</sup>/北海道大学病院病理診断科、<sup>2</sup>北海道大学病院産婦人科、<sup>3</sup>北海道大学病院放射線診断科、<sup>4</sup>北海道大学大学院医学研究院病理学講座腫瘍病理学教室、<sup>5</sup>北海道大学化学反応創成研究拠点/50 歳代/女性/子宮/Diffuse adenomatoid tumor

25-24: 高齢女性に発生した卵巣腫瘍の 1 例/榎方哲<sup>1</sup>、伊藤崇博<sup>2</sup>、山下剛<sup>2</sup>/<sup>1</sup>市立函館病院病理診断科、<sup>2</sup>市立函館病院産婦人科/70 歳代/女性/卵巣/

Borderline Brenner tumor

25-25: 40 代女性の子宮体部結節/野口航太郎、木内静香、鈴木昭/KKR 札幌医療センター/40 歳代/女性/子宮/

Low-grade endometrial stromal sarcoma

## --- 東北支部 ---

東北支部会報編集委員 鈴木 麻弥

### 1. 活動報告 (1)

第 102 回日本病理学会東北支部学術集会在、下記の内容で開催されました。

日 時: 2025 年 12 月 6 日 (土)

会 場: Web 開催

会 長: 秋田大学大学院医学系研究科

分子病態学・腫瘍病態学講座 教授 大森泰文先生

器官病態学講座 教授 後藤明輝先生

#### 【特別講演】

『白血病の多様性理解とその克服に向けた治療戦略』

演 者: 東京科学大学 医歯学総合研究科 包括病理学

理化学研究所 生命医科学研究センター ヒト疾患モデル研究チーム

石川文彦先生

座 長: 秋田大学大学院医学系研究科 分子病態学・腫瘍病態学講座

大森泰文先生

#### 【ミニレクチャー】

『医学生教育におけるデジタルの導入

— デジタル共存未来に向けて医学部教員が知っておくべきこと —』

演 者: 秋田大学大学院医学系研究科先進デジタル医学・医療教育学講座  
及川沙耶佳先生

座 長: 秋田大学医学部附属病院 病理診断科・病理部  
廣嶋優子先生

【シンポジウム (教室紹介)】 (敬称略)

『伝えたい「東北発病理学研究の魅力」 II』

座 長: 山崎有人 (東北大学病院 病理部)

(S1) 岩手医科大学医学部 病理診断学講座の紹介

柳川直樹 他 (岩手医科大学医学部 病理診断学講座)

(S2) 福島県立医科大学病理学教室の紹介

小野将寛 (福島県立医科大学 病理病態診断学講座)

小林 信 (福島県立医科大学 基礎病理学講座)

(S3) 腫瘍微小環境の AI 空間病理解析: 腫瘍-間質相互作用の定量化と術前治療後再発予測

二口 充 (山形大学医学部 病理学講座)

(S4) 教室紹介; 秋田大学器官病態学講座

小山 慧 他 (秋田大学大学院医学系研究科 器官病態学講座)

【ワークショップ】 (敬称略)

座 長: 山本洋平 (中通総合病院 病理科)

(WS1) 糖尿病は lincRNA *MEG3* を介して癌導管癌を悪化させる

山崎慶介 他 (弘前大学大学院医学研究科附属バイオメディカルリサーチセンター 分子病態病理学講座 他)

(WS2) ヒト癌における CD31 発現

伊藤歩美 他 (秋田大学大学院医学系研究科 分子病態学・腫瘍病態学講座 他)

(WS3) IgSF11-RAP1 シグナルによる悪性黒色腫の浸潤促進機構

小林靖幸 他 (福島県立医科大学医学部 基礎病理学講座 他)

座 長: 鈴木麻弥 (秋田大学大学院医学系研究科 分子病態学・腫瘍病態学講座)

(WS4) β 細胞から δ 細胞への分化転換が 2 型糖尿病 β 細胞容積低下に関与する

王 朕超 他 (弘前大学大学院医学研究科附属バイオメディカルリサーチセンター 分子病態病理学講座)

(WS5) 肺腺癌の癌関連線維芽細胞 (CAFs) でのアスピリンの発現と機能

草野峻介 他 (東北大学医学部 医学科 他)

(WS6) 舌口腔扁平上皮癌における予後層別化のための多遺伝子変異シグネチャ

鈴木兼一郎 (秋田大学大学院医学系研究科 器官病態学講座 他)

座 長: 小林 信 (福島県立医科大学 基礎病理学講座)

(WS7) 接点計測による組織構築の定量化について— Area tangent count method revisited

千葉良司 (岩手県立中央病院 病理診断科)

(WS8) 骨髄異型症候群に対する病理診断支援 AI の構築

工藤宏明 他 (弘前大学医学部 医学科 他)

## 2. 活動報告 (2)

第 103 回日本病理学会東北支部学術集会在、下記の内容で開催されました。

日 時：2026 年 2 月 14 日 (土)、15 日 (日)

会 場：東北大学 星陵キャンパス 長陵会館 (仙台)

会 長：秋田大学大学院医学系研究科 分子病態学・腫瘍病態学講座

教授 大森泰文先生

### 【特別講演1】

『免疫ペプチドミクスによるネオ抗原探索と個別化がんワクチン開発』

演 者：新潟大学大学院医歯学総合研究科 がん免疫学分野

教授 金関貴幸先生

座 長：福島県立医科大学 基礎病理学講座

千葉英樹先生

### 【特別講演2】

『病態病理学の探究』

演 者：東北大学大学院医学系研究科 病態病理学分野

教授 古川 徹先生

座 長：東北大学大学院医学系研究科 病理診断学分野

鈴木 貴先生

### 【教育講演】

『骨髄病理の根本的見方・考え方』

演 者：ITO.MD 病理研究所 合同会社

代表社員 伊藤雅文先生

座 長：山形大学医学部 病理学講座

大江倫太郎先生

### 【一般演題】(敬称略)

座 長：後藤慎太郎 (弘前大学大学院医学研究科 人体病理学・病理診断学講座)

(1) 甲状腺腫瘍の一例

齋藤明見 他 (仙台市立病院)

(2) 前縦隔腫瘍の一例

廣嶋優子 他 (秋田大学医学部附属病院 病理診断科・病理部)

(3) 咽頭腫瘍の一例

遠田幸大 他 (東北大学病院 病理部 他)

(4) 特異な形態を呈する細胞の増殖からなるリンパ節病変

前田邦彦 他 (公立置賜総合病院 病理科 他)

座 長：原嶋祥吾 (NHO 仙台医療センター 病理診断科)

(5) 精巣鞘膜腫瘍が疑われた一例

廣田嵩人 他 (NHO 仙台医療センター 臨床研修医 他)

(6) 腎腫瘍と同時に指摘された空腸腫瘍の一例

西谷匡央 (岩手県立中央病院 病理診断科 他)

(7) 臍臓に巨大な嚢胞性病変を呈した若年女性の 2 症例

廣瀬勝也 他 (東北大学大学院医学系研究科 病態病理学分野)

(8) 子宮体部多発腫瘍の一例

中村真衣 他 (新潟大学大学院医歯学総合研究科 分子診断病理学分野 他)

座 長：畠山 遥 (秋田大学大学院医学系研究科 分子病態学・腫瘍病態学講座/JA 秋田厚生連 大曲厚生医療センター 病理診断科)

(9) 1歳女児の大腿軟部腫瘍 [最優秀発表演題]

石岡佑紳 他 (弘前大学医学部 医学科3年 他)

(10) 後頭部皮膚腫瘍の 1例

村上圭吾 他 (東北大学大学院医学系研究科 病態病理学分野 他)

(11) 多発する皮疹の一例

内海滉人 他 (福島県立医科大学 病理病態診断学講座)

(12) 手根骨発生の軟骨形成性腫瘍の一例

塩谷郁美 他 (秋田大学大学院医学系研究科 分子病態学・腫瘍病態学講座 他)

座 長：岡 佑香 (福島県立医科大学 病理病態診断学講座)

(13) 高齢者の顔面に発生した皮下腫瘍の 1例 [優秀発表演題]

金山 慎 他 (山形大学医学部 医学科3年 他)

(14) 右耳下腺腫瘍の一例

宮内隼弥 他 (東北大学病院 病理部 他)

(15) 左耳下腺部に腫瘤形成をきたした病変の 1症例

鈴木正通 他 (総合南東北病院 病理診断学センター 他)

(16) 小腸腫瘍の一例

小野正崇 他 (いわき市医療センター 初期研修医 他)

## 3. 開催予定

第 104 回 日本病理学会東北支部学術集会

日 時：2026 年 7 月 11 日 (土)、12 日 (日)

会 場：東北大学 星陵キャンパス 長陵会館 (仙台)

会 長：東北医科薬科大学医学部

病理学教室 教授 中村保宏先生

病理診断学教室 教授 藤島史喜先生

## -- 関東支部 --

関東支部会報編集委員 林 雄一郎

第 109 回日本病理学会関東支部学術集会在が下記の日程で開催されました。

日 時：令和 8 年 (2026 年) 3 月 21 日 (土) 13:00~17:00

会 場：東京女子医科大学 彌生記念教育棟 2 階 202, 203 講義室

世話人：東京女子医科大学 病理学 倉田 厚先生

<テーマ> 「肝腎かなめの病理学」

総合司会 箱崎真結先生 (東京女子医科大学 病理学 (人体病理学・病態神経科学分野))

特別講演 1 「腎腫瘍の病理診断~molecularly defined type とどう対峙するか」

演 者：長嶋洋治先生 (東京女子医科大学 病理診断学分野)

座 長：鷹橋浩幸先生 (東京慈恵会医科大学 病理学講座・病院病理部)

一般演題 1 「奇形腫から発生した未分化癌の 1 例」

演 者：本多将吾先生 (独立行政法人国立病院機構 相模原病院 病理診断科)

座 長：黒田 一先生 (東京女子医科大学附属足立医療センター 病理診断科)

学生特別演題 「常染色体優性（顕性）多発性嚢胞腎剖検例における門脈・下大静脈血栓合併頻度と特徴」

演者：篠崎あんな先生（東京女子医科大学 医学部4年生）

座長：黒田 一先生（東京女子医科大学附属足立医療センター 病理診断科）

特別講演2 「肝臓の病理：最近の話題を含めて」

演者：高橋芳久先生（東京医科大学 分子病理学分野）

座長：松本俊治先生（順天堂大学医学部附属練馬病院 病理診断科）

一般演題2 「虎の門病院におけるHBV関連腎症の臨床病理学的検討」

演者：河野 圭先生（虎の門病院 病理診断科）

座長：吉澤佐恵子先生（東京女子医科大学 病理診断科）

ミニレクチャー 「ループ腎炎病理診断のポイント」

演者：種田積子先生（東京女子医科大学 病理診断科）

座長：佐伯春美先生（順天堂大学 医学部 人体病理病態学講座）

閉会の挨拶 橋本浩次先生（東京女子医科大学 病理学（人体病理学・病態神経科学分野））

開催予定は以下の通りです。

第110回学術集会

2026年7月4日（土） 国立がん研究センター東病院

-- 中部支部 -----

中部支部会報編集委員 浦野 誠

【第95回日本病理学会中部支部交見会】

日時：2025年12月20日（土）

場所：名古屋医療センター

世話人：西村理恵子先生（名古屋医療センター 病理診断科）

参加者：139名

ランチョンセミナー

清水淳市先生（愛知県がんセンター 呼吸器内科部）

「ALK融合遺伝子陽性非小細胞肺癌の治療と周術期/進行再発期におけるALK検査」

特別講演

森谷鈴子先生（滋賀医科大学医学部附属病院 病理部）

「筋上皮に関連する乳腺病変」

症例検討

座長 小林瑞穂（名古屋市立大学大学院医学研究科/東部医療センター）

1648 名古屋医療センター病理診断科 鬼塚すみれ 頭頸部（眼窩）70代 男性

Eosinophilic angiocentric fibrosis

涙腺に発生した好酸球性血管中心性線維症例。アミロイド沈着の既往を有し、小血管周囲を線維化が取り囲む“onion-skin”パターンが目立っていた。IgG4関連疾患との関連、異同について考察がなされた。

1649 愛知医科大学病院 大石凜紗 皮膚 70代 女性

Sebaceous carcinoma with sarcomatoid differentiation

眼瞼に発生した境界明瞭な結節性病変で、表層上皮内にPagetoid spreadを伴い浸潤部では異型紡錘形細胞の増殖を認め肉腫様分化とみなされた。adipophilinが空胞状陽性を呈した。

1650 名古屋市立大学病院 長沼健太 口腔 60代 女性

Calcifying epithelial odontogenic tumor (Pindborg tumor)

歯肉上皮下の境界明瞭な腫瘍。石灰化とアミロイドの沈着を伴い好酸性細胞質の多稜形腫瘍細胞が索状、胞巣状に増殖していた。口腔領域の他のアミロイド産生性腫瘍について鑑別が述べられた。

座長 村上善子（名古屋医療センター）

1651 名古屋大学医学部附属病院 城戸龍之介 軟部 50代 女性

Sclerosing PEComa

腎下極に接した後腹膜腫瘍。紡錘形細胞が上皮様胞巣を形成し硬化性間質内に増殖、血管周囲性配列を認めた。平滑筋アクチンびまん性陽性、HMB-45散在性陽性を呈した。本亜型は腎周囲後腹膜に多いことが解説された。

1652 藤田医科大学医学部病理診断学講座 佐藤 恵 軟部 10代 男性

Alveolar soft part sarcoma

小児の側頭部腫瘍。境界明瞭な多血性腫瘍で核小体伴う類円形核と淡明～好酸性細胞質を有する類上皮様細胞が胞巣状増殖し、PAS陽性針状構造物を認めた。FISHでASPCRI::TFE3融合を確認した。PEComaとの鑑別について討議がなされた。

1653 静岡県立総合病院 芹澤沙耶香 軟部 50代 女性

Melanoma, metastasis

腋窩発生の軟部腫瘍。淡好酸性腫瘍細胞が胞巣状、充実性に増殖していた。S100、SOX10、melan A、HMB45、MITF、PRAMEに陽性を呈した。EWSR1遺伝子再構成は陰性であった。最終的に背部皮膚原発の黒色腫が所属リンパ節である腋窩リンパ節に転移したことが判明した。

座長 岩越朱里（名古屋医療センター）

1654 JA長野厚生連南長野医療センター篠ノ井総合病院 佐藤弥生 皮膚 70代 男性

Dendritic cell neurofibroma with pseudorosettes

項部の皮下腫瘍。線維粘液腫状間質を背景に紡錘形細胞が叢状、偽ロゼット状に増殖していた。コンマ状核を有するI型細胞とCD57に陽性を呈する類円形核のII型細胞の増殖からなっていた。PRKCA融合遺伝子について解説がなされた。

1655 石川県立中央病院 橋本未紅 卵巣 10代 女性

Immature teratoma with placental site trophoblastic tumor (PSTT)

未熟奇形腫の間質内に好酸性細胞がmassを形成することなく充実性～個在性に増殖していた。hCG、MUC4、CD146、IMP3陽性でPSTTとみなされた。病変の局在、分布について討論がなされた。

1656 富山大学 病態・病理学講座 奥野のり子 胃 70代 男性

Gastric adenocarcinoma, NOS with loss of SMARCA4 expression

内向性発育を示す胃癌でSMARCA4蛋白の完全欠失とSMARCA2発現の減弱を認めた。強い核異型、未分化な組織像、synaptophysin弱陽性、HNF4α減弱は本組織型の診断のヒントになる可能性が述べられた。

【第29回日本病理学会中部支部スライドセミナー】

日時：2026年3月14日（土）

場所：名古屋大学病院講堂

世話人：岩崎 靖先生（愛知医科大学 加齢医学研究所）

テーマ：神経病理

参加者：90名

講演 1 宮原弘明先生 (愛知医科大学 加齢医学研究所)  
「脳脊髄の採取法、標本化する部位、神経染色法のスズメ〜  
小児から成人まで」

講演 2 陸 雄一先生 (愛知医科大学 加齢医学研究所)  
「筋萎縮性側索硬化症の病理診断の進め方」

講演 3 岩崎 靖先生 (愛知医科大学 加齢医学研究所)  
「プリオン病の病理解剖と神経病理所見について」

#### 症例検討

座長 岩崎 靖 (愛知医科大学 加齢医学研究所)

S2025-1 富山大学学術研究部医学系法医学講座 一萬田正二郎 小脳  
80代 男性

#### Paraneoplastic cerebellar degeneration (PCD)

肺扁平上皮癌に合併した抗 amphiphysin 抗体関連傍腫瘍性小脳変性症例。  
小脳虫部の萎縮、皮質のプルキンエ細胞の脱落がみられた。PCDは肺癌、  
乳癌に合併しやすいが、早期では画像診断で小脳萎縮の判定が困難な場  
合もあり、組織学的検索の重要性が述べられた。

S2026-2 NHO 医王病院北陸脳神経疾患センター研究検査科 中田 聡子  
脳・脊髄 70代 女性

#### Amyotrophic lateral sclerosis, TDP-43 proteinopathy

上位および下位運動ニューロン障害がみられ、脊髄前根の萎縮と前角神  
経細胞脱落、Bunina 小体の出現、皮質脊髄路の変性、大脳運動野の Betz  
巨細胞減少がみられた。大脳基底核にもみられたリン酸化 TDP-43 陽性  
所見は非定型的であった。

S2026-3 三重大学医学部附属病院 三室 マヤ 大脳 60代 男性

#### Autoimmune GFAP astrocytopathy

扁桃体結節性病変の切除組織で血管周囲腔と脳実質内にリンパ球浸潤と  
肥胖アストロサイトが出現していた。髄液中の GFAP 抗体が陽性で、自  
己免疫性 GFAP アストロサイトパチーと診断された。MRI で側脳室周囲  
の線状血管周囲放射状陰影が特徴であることが解説された。

S2026-4 藤田医科大学病院 佐藤 恵 脊髄 70代 女性

TDP amyotrophic lateral sclerosis (ALS) and frontotemporal dementia (FTD)  
急速進行性の経過で死亡に至った ALS 症例。脊髄前根の萎縮、舌下神経  
核や脊髄前角の神経細胞内の Bunina 小体、TDP-43 封入体を認めた。側  
頭葉内側、辺縁系に限局した前頭側頭葉変性症像を認め、認知機能との  
関連が考察された。

#### 【第 94 回日本病理学会中部支部交見会 優秀演題賞受賞者】

学術奨励賞 高橋弘毅先生 (信州大学臨床検査部)

学術奨励優秀発表賞 村元暁文先生 (福井大学病理学講座)

同 志満津美幸先生 (愛知医科大学病理診断科)

#### 【第 95 回日本病理学会中部支部交見会 優秀演題賞受賞者】

学術奨励賞 鬼塚すみれ先生 (名古屋医療センター)

学術奨励優秀発表賞 佐藤弥生先生 (篠ノ井総合病院)

#### 【今後の予定】

第 96 回日本病理学会中部支部交見会

2026 年 7 月 11 日 (土)

場 所: じゅうろくプラザ

世話人: 松永研吾先生 (中部国際医療センター)

第 97 回日本病理学会中部支部交見会

2026 年 12 月 19 日 (土)

場 所: 名古屋市立大学

世話人: 稲熊慎吾先生 (名古屋市立大学医学研究科臨床病態  
病理学分野)

第 30 回日本病理学会中部支部スライドセミナー

2027 年 3 月 13 日 (土) 予定

テーマ: 脳腫瘍診断の現在地

場 所: 静岡県立静岡がんセンター

世話人: 大石琢磨先生 (静岡県立静岡がんセンター病理診断  
科)

#### -- 近畿支部 -----

近畿支部会報編集委員 竹内 康英

#### I. 活動報告

a) 日本病理学会近畿支部第 111 回学術集会

令和 7 年 12 月 6 日 (土)、日本病理学会近畿支部第 111 回学  
術集会在下記の内容で開催されました。

検討症例、画像等につきましては近畿支部ホームページ  
(<http://jspark.umin.jp/>) にて閲覧可能です。アカウント・パスワード  
の必要な方は近畿支部事務局 (kinpatho@kuhp.kyoto-u.ac.jp)  
までお尋ね下さい。

11:15~11:20 開会の挨拶:

羽賀博典先生 (京都大学大学院医学研究科 病理診断学)

11:20~11:40 ■症例検討 1037 (希少症例)

【コメンテーター】伊藤智雄先生 (神戸大学医学部附属病院 病理部)

『鼻腔に発生した紡錘形細胞腫瘍の一例』

福留拓人先生、他 (京都大学医学部附属病院 病理診断科)

11:40~12:00 ■症例検討 1038 (希少症例)

【コメンテーター】孝橋賢一先生 (大阪公立大学大学院医学研究科 診断病  
理・病理病態学)

『脳腫瘍の一例』

政岡亜実先生、他 (兵庫県立こども病院 病理診断科)

12:00~13:00 休憩 (60分間)

13:00~13:20 令和 6 年度日本病理学会近畿支部 人体病理学学術奨励賞  
授賞講演

『Podoplanin Expression in Early-Stage Colorectal Cancer-Associated Fibroblasts  
and Its Utility as a Diagnostic Marker for Colorectal Lesions』

塚本修一先生 (国立がん研究センター東病院 病理・臨床検査科)

13:20~13:30 休憩 (10分間)

13:30~14:30 ■特別講演 1

【座長】羽賀博典先生 (京都大学大学院医学研究科 病理診断学)

『原発性肝癌の病理: 多様性とその臨床的意義

—臨床医が病理診断から何を知りたいか?—』

小無田美菜先生 (国際医療福祉大学 医学部 病理・病理診断学教室)

14:30~14:50 休憩 (20 分間)

14:50~15:50 ■特別講演 2

【座長】羽賀博典先生 (京都大学大学院医学研究科 病理診断学)

『肝内胆管癌の病理』

全 陽先生 (King's College Hospital)

15:50~16:00 閉会の挨拶、次回開催案内

羽賀博典先生 (京都大学大学院医学研究科 病理診断学)

## b) 日本病理学会近畿支部第 112 回学術集会

令和 8 年 2 月 28 日 (土)、日本病理学会近畿支部第 112 回学術集会在下記の内容で開催されました。

検討症例、画像等につきましては近畿支部ホームページ (<http://jspk.umin.jp/>) にて閲覧可能です。アカウント・パスワードの必要な方は近畿支部事務局 ([kinpatho@kuhp.kyoto-u.ac.jp](mailto:kinpatho@kuhp.kyoto-u.ac.jp)) までお尋ね下さい。

10:00~10:05 閉会の挨拶: 豊澤 悟先生 (大阪大学大学院歯学研究科 顎顔面口腔病理学講座)

10:05~11:20 症例検討 発表

【座長】藤本正数先生 (京都大学医学部附属病院 病理診断科)

■症例検討 1039 (希少症例)

『生検での確定診断に苦慮した前立腺癌の一例』

内本 梓先生、他 (神戸市立西神戸医療センター 病理診断科)

■症例検討 1040 (教育症例)

『外陰部皮膚の黒色調病変』

池田達志先生、他 (和歌山県立医科大学・人体病理学教室/病理診断科)

【座長】田原伸一郎先生 (大阪大学大学院医学系研究科 病態病理学・病理診断科)

■症例検討 1041 (教育症例)

『鼻腫瘍の一例』

吉田牧子先生、他 (兵庫県立こども病院 病理診断科)

■症例検討 1042 (教育症例)

『上顎腫瘍の一例』

竹内康英先生、他 (京都大学医学部附属病院 病理診断科)

■症例検討 1043 (希少症例)

『口蓋腫瘍の一例』

廣瀬勝俊先生、他 (大阪大学大学院歯学研究科 顎顔面口腔病理学講座)

11:20~11:40

■令和 6 年度日本病理学会近畿支部 人体病理学学術奨励賞 受賞講演

『Location of Fibroblastic Foci: Does the Lesion You Observe Really Suggest Usual Interstitial Pneumonia?』

桂川広幸先生 (京都大学大学院医学研究科 病理診断学分野)

11:40~13:00 休憩 (80 分間)

13:00~14:00 ■特別講演

座長: 豊澤 悟先生 (大阪大学大学院歯学研究科 顎顔面口腔病理学講座)

『上気道腫瘍の病理 update: 上皮性病変を中心に』

湊 宏先生 (石川県立中央病院 病理診断科)

14:00~14:20 休憩 (20 分間)

14:20~15:20 ■教育講演 1

座長: 佐藤 淳先生 (大阪大学大学院歯学研究科 顎顔面口腔病理学講座)

『歯原性腫瘍の重荷をおろす “知って得する基本のキ”』

伊藤由美先生 (日本鋼管病院 病理診断科 口腔病理診断センター)

15:20~15:30 休憩 (10 分間)

15:30~16:30 ■教育講演 2

15:30~16:00 ■教育講演 2-1

座長: 重岡 学先生 (神戸大学大学院医学研究科 病理学講座 分子病理学分野)

『口腔白板症の病理診断』

宇佐美悠先生 (大阪大学大学院歯学研究科 顎顔面口腔病理学講座)

16:00~16:30 ■教育講演 2-2

座長: 宇佐美悠先生 (大阪大学大学院歯学研究科 顎顔面口腔病理学講座)

『口腔扁平上皮の良悪性鑑別 —免疫組織化学を中心に—』

重岡 学先生 (神戸大学大学院医学研究科 病理学講座 分子病理学分野)

16:30~16:40 閉会の挨拶、次回開催案内

羽賀博典先生 (京都大学大学院医学研究科 病理診断学分野)

## II. 今後の活動予定

### a) 学術集会のお知らせ

第 113-114 回学術集会是下記の開催を予定しております。専門医資格更新単位の発行を予定しています。参加登録方法は近畿支部ホームページにて案内予定です。

### ■第 113 回

日 程: 2026 年 5 月 30 日 (土)

モデレーター: 吉田牧子先生 (兵庫県立こども病院)

世話人: 孝橋賢一先生 (大阪公立大学)

開催会場: 大阪公立大学大学院医学研究科 大講義室

詳しくは近畿支部ホームページをご参照ください。

## -- 中国四国支部 -----

中国四国支部会報編集委員 水野 洋輔

### A. 開催報告

#### 第 149 回学術集会

日本病理学会中国四国支部第 149 回学術集会在下記の内容で開催されました。

発表スライドや投票結果は <https://plaza.umin.ac.jp/csp-kouhou/> でご覧ください。

開催日: 令和 8 年 2 月 7 日 (土) 13:00~17:00

世話人: 徳島大学大学院医歯薬学研究部 疾患病理学分野 常山幸一先生

開催形式: 徳島大学大塚講堂+Webex オンライン(ハイブリッド開催)

特別講演: 『デジタルパソロジーシステムの導入に向けて—地方自治体病院の取り組み』

演 者: 富山県立中央病院病理診断科・病理部長 石澤 伸先生

演題番号/タイトル/出題者(所属)/出題者診断/最多投票診断  
 座長: 石井文彩(四国こどもとおとなの医療センター 病理診断科)  
 S2967/声帯のポリープ状病変/沼 理恵(岡山済生会総合病院 病理)/  
 Laryngeal inflammatory myofibroblastic tumor/ Myxoma  
 S2968/下顎骨病変/永尾瑠桂(徳島大学大学院 口腔病理)/  
 Langerhans cell histiocytosis/ Radicular cyst  
 S2969/甲状腺病変/園部 宏(福山医療センター 病理診断科)/  
 Warthin tumor-like thyroid papillary carcinoma, and histological changes reflecting irAE in the left thyroid lobe/ Papillary carcinoma  
 座長: 宮上侑子(徳島大学病院 病理診断科)  
 S2970/顎部リンパ節腫瘍/松澤鎮史(徳島大学大学院 口腔病理)/  
 Alveolar rhabdomyosarcoma/ Lymphoma  
 S2971/傍精巣腫瘍/本間りり(広島市民病院 病理診断科)/  
 Dedifferentiated liposarcoma/ Liposarcoma  
 S2972/卵巣腫瘍/岸本知大(香川大学医学部附属病院 病理診断科)/  
 Mixed germ cell tumor with gonadoblastoma/ Mixed germ cell tumor  
 座長: 渡邊俊介(吉野川医療センター 臨床検査科)  
 S2973/腎腫瘍/浅田昌紀(倉敷中央病院 病理診断科)/  
 Eosinophilic vacuolated tumor/ Eosinophilic vacuolated tumor  
 S2974/腎腫瘍/厄子 工(徳島大学病院 卒後臨床研修センター)/  
 Synovial sarcoma/ Synovial sarcoma  
 S2975/右腎腫瘍/木内華由(徳島大学病院 病理診断科)/  
 TFEB-rearranged renal cell carcinoma/ TFEB-altered renal cell carcinoma  
 座長: 西條康代(徳島大学大学院 分子病理学講座)  
 S2976/腹腔内出血(大網病変)/井関昭子(岩国医療センター 病理診断科)/  
 Segmental arterial mediolysis/ Segmental arterial mediolysis  
 S2977/貧血(骨髓病変)/岸田直也(四国こどもとおとなの医療センター 臨床研修部)/  
 Parvovirus B19-associated pure red cell aplasia/ Myelodysplastic neoplasm (MDS)  
 S2978/頭蓋内病変/藤山武史(徳島赤十字病院 病理部)/  
 Amyloid  $\beta$ -related angitis/ Amyloid  $\beta$ -related angitis

## B. 開催予定

### 第150回学術集会

日時: 令和8年7月11(土)

世話人: 川崎医科大学病理学 塩見達志先生

開催場所: 川崎医科大学総合医療センター(現地開催のみ)

特別講演演者: 防衛医科大学校 宮居弘輔先生

記念行事: 学術集会後、川崎医科大学総合医療センター内レストランにて懇親会を予定。

## --九州沖縄支部-----

九州沖縄支部編集委員 立石 悠基

### 1. 活動報告

第409回九州・沖縄スライドコンファレンスが下記のように開催されました。

日時: 2026年1月31日(土) 13:00~17:00

場所: 鹿児島市立病院1階多目的ホール

世話人: 鹿児島市立病院 病理診断科 部長 末吉和宣先生

世話人: 鹿児島厚生連病院 病理診断科 部長

松木田純香先生

参加数: 88名

### 第409回九州・沖縄スライドコンファレンス

臨床診断あるいは発表演題名/発表者/発表者の所属/症例の年齢/症例の性別/出題者診断/投票最多診断

座長: 笹平智則(鹿児島大学)

1 左上顎腫瘍(バーチャル)/内田賢志/北九州市立医療センター/30代/男性/  
 Mesenchymal chondrosarcoma/Mesenchymal chondrosarcoma

2 鼻腔ポリープ/後藤正道/鹿児島医療センター病理診断科/60代後半/男性/  
 Respiratory epithelial adenomatoid hamartoma (REAH)/Respiratory epithelial adenomatoid hamartoma (REAH)

座長: 野口紘嗣(鹿児島大学)

3 膵病変(バーチャル)/菊島百香/福岡大学医学部病理学講座/20代/男性/  
 Autoimmune pancreatitis, type 2/Autoimmune pancreatitis

4 精巣腫瘍/松山篤二/福岡和白病院病理診断科/70代/男性/  
 Spermatocytic tumor/Spermatocytic tumor

5 卵巣腫瘍の一例/池崎桜子-岡崎菜紗/熊本大学医学部医学科-熊本大学病院病理部/90代/女性/  
 Somatically-derived embryonal carcinoma, in association with mucinous carcinoma/Anaplastic carcinoma

6 右下腹部腫瘍/熊谷奏実-佐藤勇一郎/宮大学附属病院研修医-宮大病理学腫瘍形態/50代/男性/  
 Phosphoglyceride crystal deposition disease/Phosphoglyceride crystal deposition disease

座長: 高城千彰(鹿児島市医師会病院)

7 右大腿腫瘍/甲斐悠斗/九州大学病院形態機能病理学/80代/女性/  
 Inflammatory rhabdomyoblastic tumor/Rhabdomyosarcoma

8 前額部皮膚病変(バーチャル)/東美智代/いまきいれ総合病院-鹿児島大学病院 病理部・病理診断科/20代後半/男性/  
 Hansen disease, Borderline tuberculoid type/Hansen disease

9 右第3指腫瘍(バーチャル)/秋山優里/九州がんセンター統括診療部病理診断科/70代/男性/  
 Primary cutaneous NUT carcinoma/Porocarcinoma

10 左手皮膚腫瘍(バーチャル)/前川和也/宮崎大学医学部病理学講座構造機能病態学分野/90代/男性/  
 Metaplastic carcinoma/Malignant mixed tumor

座長: 霧島茉莉(鹿児島大学病理学分野)

11 脳病変(バーチャル)/霧島茉莉/鹿児島大学病理学分野/70代/女性/  
 Progressive multifocal leukoencephalopathy/Progressive multifocal leukoencephalopathy

12 馬尾腫瘍 (バーチャル)/小山雄三/大分大学医学部診断病理学講座/40代/女性/  
ALK-positive histiocytosis/Rosai-Dorfman disease

第409回九州・沖縄スライドコンファレンスと同日に学術講演が下記のように開催されました。

学術講演

杏林大学医学部附属病院 病院病理部・病理診断科 教授  
柴原純二先生

「脳腫瘍診断のアップデート」

座長：鹿児島市立病院 病理診断科 部長 末吉和宣先生

第410回九州・沖縄スライドコンファレンスが下記のように開催されました。

日時：2026年3月14日(土) 13:00~17:00

場所：大分県労働福祉会館ソレイユ7階 アイリス

世話人：大分大学医学部 診断病理学講座 教授

駿河 勤先生

参加数：78名

第410回九州・沖縄スライドコンファレンス

臨床診断あるいは発表演題名/発表者/発表者の所属/症例の年齢/症例の性別/  
出題者診断/投票最多診断

座長：菊島百香(福岡大学)

- 1 肺腫瘍/甲斐敬太/熊本大学病理診断科/60代/男性/  
Hepatoid adenocarcinoma of the lung/Hyalinizing clear cell carcinoma
- 2 前縦隔腫瘍(バーチャル)/田崎貴嗣/鹿児島大学病理学分野/60代/女性/  
Well differentiated liposarcoma (Thymoliposarcoma)/Thymolipoma
- 3 胃病変(バーチャル)/都筑 諒-佐藤勇一郎/宮崎大学医学部病理学講座  
腫瘍形態病態学分野/60代後半/男性/  
Smooth muscle tumor (leiomyoma)/Hamartoma

座長：西田陽登(大分大学)

- 4 胃腫瘍/本間 仁/九州大学形態機能病理/50代後半/女性/  
EBV-associated gastric carcinoma colliding with squamous metaplasia/Adenocarcinoma
- 5 移植腎病変(バーチャル)/上杉憲子/福岡大学病理/40代後半/男性/  
Crystalline nephropathy due to adenine phosphoribosyltransferase (APRT) deficiency/Oxalate nephropathy
- 6 右付属器病変(バーチャル)/志手康一郎(研修医)-中園裕一/別府医療センター/60代/女性/  
Carcinosarcoma/Carcinosarcoma

座長：山田 倫(熊本大学)

- 7 右顎下部腫瘍/古川理子/大分大学医学部附属病院診断病理学講座/60代/男性/  
Diffuse large B-cell lymphoma, GCB type/Langerhans cell sarcoma
- 8 上腕皮膚病変(バーチャル)/門脇裕子/大分大学医学部附属病院診断病理学講座/80代/男性/  
EBV-positive mucocutaneous ulcer/Malignant lymphoma

第410回九州・沖縄スライドコンファレンスと同日に学術講演が下記のように開催されました。

学術講演

飯塚病院 病理科 部長 大石善丈先生

「卵巣癌の病理診断」

座長：別府医療センター 病理診断科 臨床検査科・病理診断科科長 中園裕一先生

2. 開催予定

第411回九州・沖縄スライドコンファレンス

開催日時：2026年5月16日(土) 現地開催

世話人：九州大学 形態機能病理学 教授 小田義直先生

世話人：九州大学 構造病態病理学 教授 相島慎一先生

世話人会・総会

第412回九州・沖縄スライドコンファレンス

開催日時：2026年7月18日(土) Web開催(Webex meetings 使用)

世話人：JCHO 九州病院 病理診断科 病理部長

本下潤一先生

第99回九州病理集談会

=====  
病理専門医部会会報は、関連の各種業務委員会の報告、各支部の活動状況、その他交流のための話題や会員の声などで構成しております。皆様からの原稿も受け付けておりますので、日本病理学会事務局付で、E-mailなどで御投稿下さい。

病理専門医部会会報編集委員会：池田純一郎(委員長)、杉田真太郎(北海道支部)、鈴木麻弥(東北支部)、林雄一郎(関東支部)、浦野 誠(中部支部)、竹内康英(近畿支部)、水野洋輔(中国四国支部)、立石悠基(九州沖縄支部)

=====